



希少野生生物の保護・繁殖に精力的に取り組んでいることを  
もっと多くの人に、伝える企画

## 企画の考え方

「もしも生物の保護をしなかったら？」という観点で  
生物たちが保護されなかった未来を想像しました。

現代の私たちは恐竜の体色や古代生物の生態を  
骨格や化石など、残された数少ない手がかりから想像します。  
データも写真も残らないような遠い遠い未来の人も同様に  
保護されず消えてしまった生物たちを  
現在の真実の姿とはかけ離れた姿で、  
想像してしまうかもしれないと考えました。

## 表現のポイント

多くの人が動物園といえば、  
「動物を見る場所」というイメージを持っているなかで  
動物園や博物館などでよく見られる  
「復元」という展示の形にすることで  
未来を想像しやすいように表現しました。

コピー

---

# ありえない、と笑いますか。

もしも野生生物の保護をしなかったら。  
生物たちは環境の変化に適応できず  
やがて消えてしまうかもしれません。  
独特の毛並みも、長い鼻も、力強いフォルムも、すべて。

消えた生物たちは、骨だけが残され  
現在の姿とはかけ離れた姿で復元される。  
そんな未来もありえるのです。

東京動物園協会は、  
野生生物の保護・繁殖に精力的に取り組んでいます。

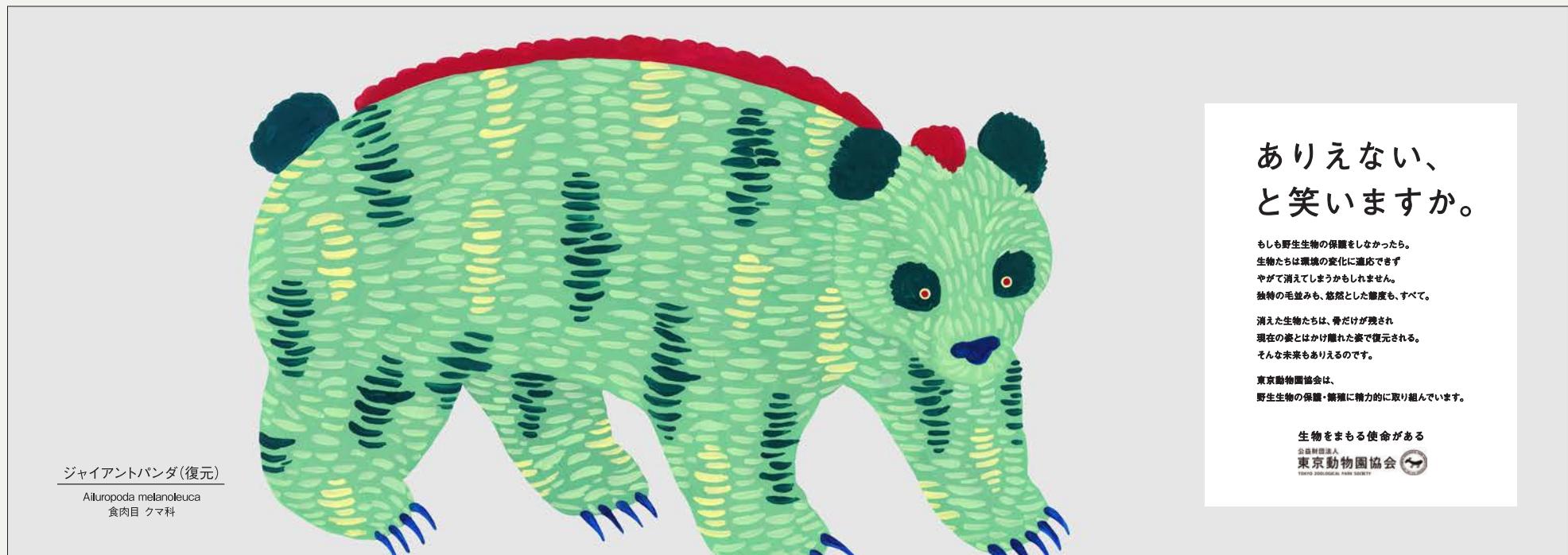
生物をまもる使命がある

公益財団法人  
**東京動物園協会**  
TOKYO ZOOLOGICAL PARK SOCIETY



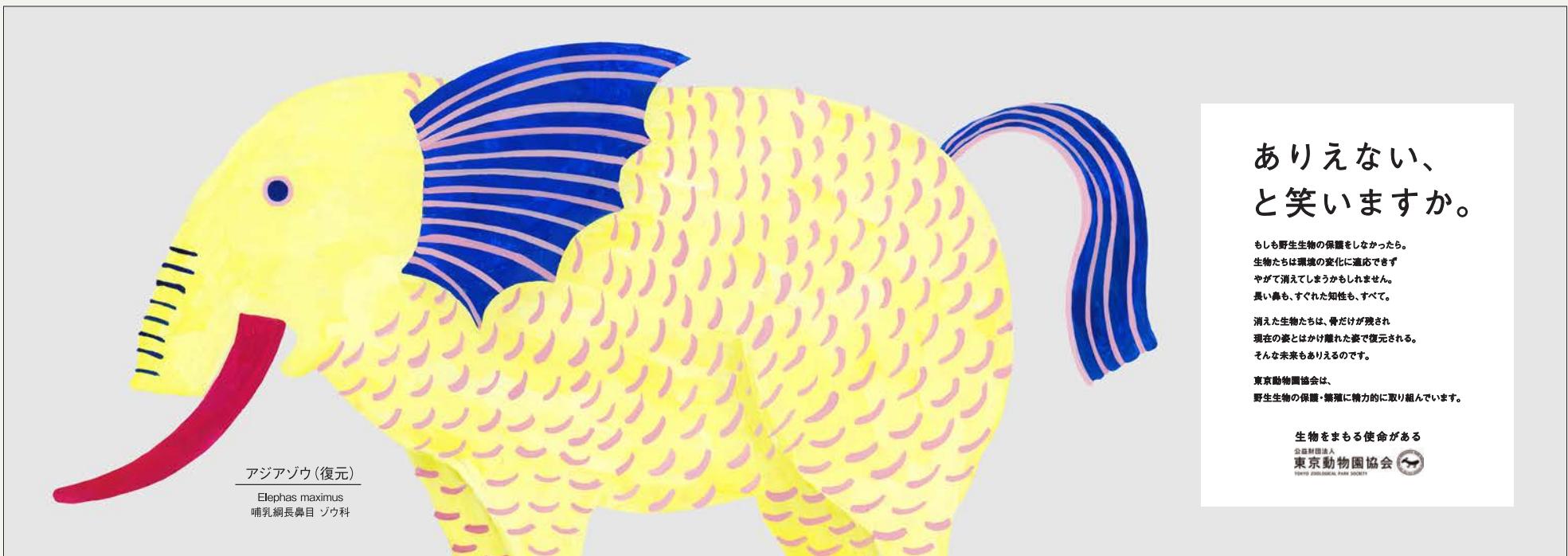
## ビジュアルイメージ

### ①ジャイアントパンダ



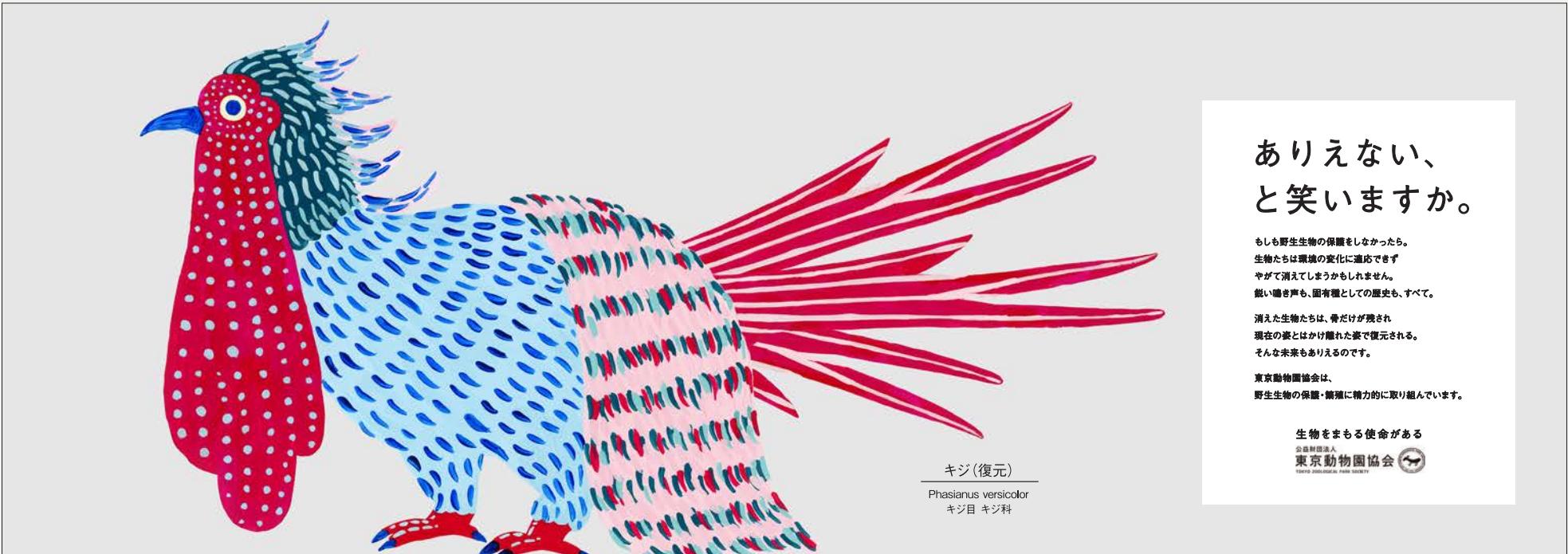
## ビジュアルイメージ

### ②アジアゾウ



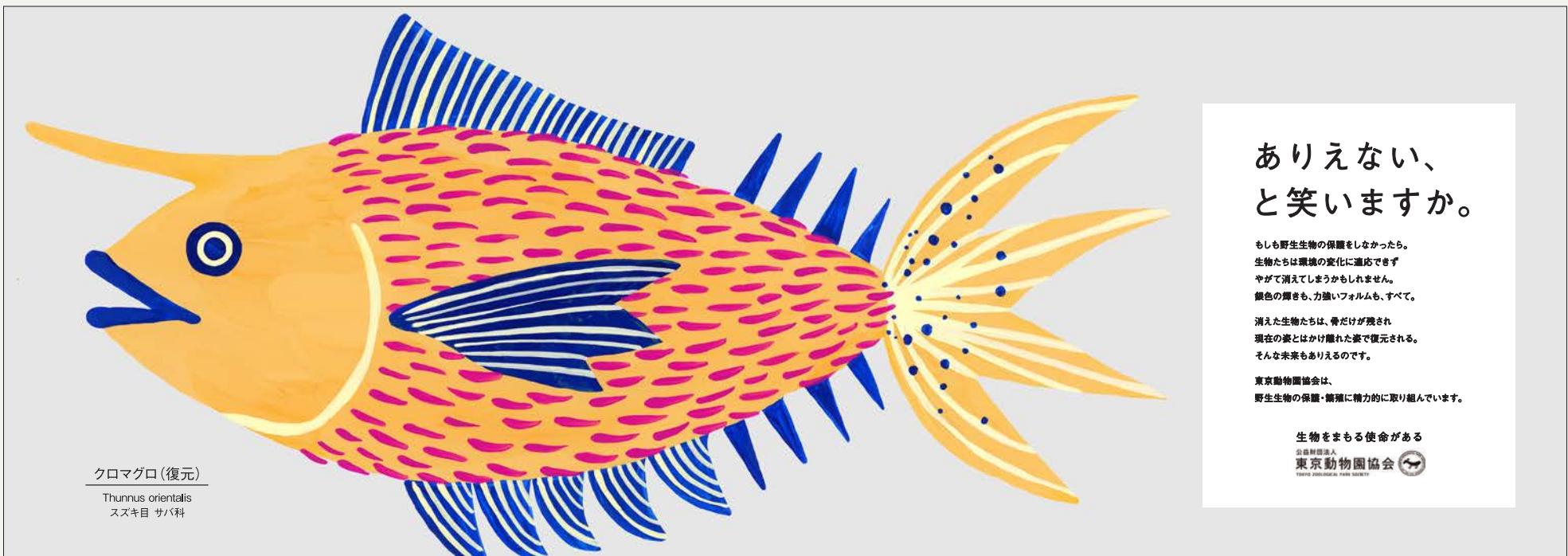
## ビジュアルイメージ

③キジ



## ビジュアルイメージ

### ④クロマグロ



## ビジュアルイメージ

### ⑤マルチパターン



## 掲出イメージ

